

11月のYA特集

舞台は図書館

木々が色づき始めて秋が深まってきました。秋はじっくりと本を読むのに丁度良い季節です。今月は図書館を舞台にした物語など、『本』にまつわる本を集めました。

10/27(金)~11/9(木) 秋の読書週間です。新しい本との出会いを楽しんで下さい。



市立図書館の「児童読書相談コーナー」でアルバイトする私のもとには、なぜか不思議な話が集まってきました。「天使の本か 悪魔の本か」「美術館の少女」「アリスのうさぎ」「白い着物」
少し怖くて奇妙な4つの奇譚集です。



アリスのうさぎ 斉藤洋:作 森泉岳土:絵 偕成社



不登校の草子(中1)は毎日を図書館で過ごしています。ある小さな事件をきっかけに、「しずかな子は魔女に向いている」という文章の出てる本をさがすため、図書館のレファレンスを利用します。

司書の深津さんが用意してくれたものは白い紙の束でした。草子と深津さんの交流、本の中のもう一つの物語、どちらも心温まるお話です。

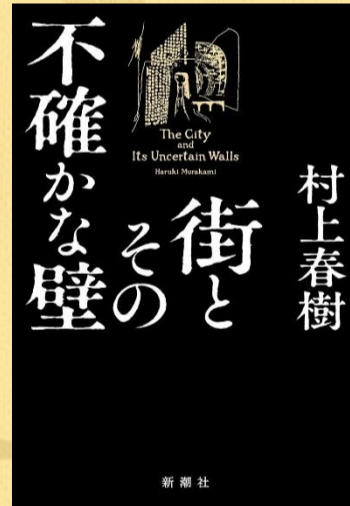
しずかな魔女 市川朔久子:作 岩崎書店



1969年、大学図書館職員の青年が、サンフランシスコを訪れます。数百年ものあいだ行方不明の貴重な書物を見つけだす使命を帯びて…。

手がかりを求めて街中をさまよった末、青年は一件の小さな書店に行き着きます。書店の人々や大学時代の友人の力をかりて、青年は本の手がかりを探します。本にまつわる冒険の物語です。

はじまりの24時間書店 ロビン・スローン:著 東京創元社



「高校生エッセイコンクール」で出会った『ぼく』と『きみ』は、ある夏二人で「想像の街」を創り上げます。その思い出をかかえて『ぼく』は大人になります。一方、高い壁に囲まれた街の図書館で「古い夢」を読んでいる『私』。二つの物語が交差し、思いがけない方向へ展開していきます。作者が40年にわたってつづってきた「壁に囲まれた街」の新しい物語、静かに深く、心揺さぶられる一冊です。

街とその不確かな壁 村上春樹:著 新潮社

オススメの作家紹介

村上春樹

1949年生まれ

1979年『風の歌を聴け』でデビュー。『ノルウェイの森』『1Q84』などの話題作を執筆しています。国内外の文学賞を多数受賞し、ノーベル文学賞受賞が期待されている作家の一人です。今回紹介する3つの物語には、不思議な図書館が出てきます。幻想的でちょっと怖い村上ワールドに触れてみてください。

世界の終りと
ハードボイルド・
ワンダーランド
村上春樹

世界の終わりと
ハードボイルド・
ワンダーランド
新潮社



海辺のカフカ ① ②
新潮社



図書館奇譚
イラスト:カト・シメック
新潮社